

教科名	科目名	単位数	履修学年	区分・型(文型・理型)	全員/選択
外国語(英語)	オーラル・コミュニケーション	2単位	第1学年	普通科国際コミュニケーションコース	全員

1 学習の到達目標

学習の到達目標	日常生活の身近な話題について、英語を聞いたり話したりして、情報や考えなどを正しく理解した上で、自分の考えを伝える基礎的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
使用教科書・副教材等	Planet Blue Oral Communication (旺文社) Planet Blue Oral Communication I Dictation ノート(旺文社)

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第1学期	Lesson1 Lesson2	4	<ul style="list-style-type: none"> 英語を使ってコミュニケーションを図ることに慣れるとともに、基礎的な英語力を養うことを主目標とする。 定期的に英作文の課題を課し、自分の考えや意見を英語で表現する力を養う。 	毎時間、単独あるいはペアやグループでの活動の時間を設定し、英語で自己を表現するためのトレーニング活動を行う。	中間考查
	Lesson3 Lesson4 ショウアンドテル Lesson5	5			
		6	<ul style="list-style-type: none"> 英語を用いてのコミュニケーションをより積極的に行う態度の養成を図るとともに基礎的な英語力を養う。 英語のエッセイの構成、書き方について学習し、より適切な表現力を養う。 		期末考查
		7			
	[課題・提出物等] エッセイライティング、ショウアンドテルの原稿等				
[第1学期の評価方法] 定期考查、授業内での小テストやショウアンドテルなどの活動、エッセイライティングの課題等を総合的に評価する。					

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第2学期	Lesson6 Lesson7 Lesson8	8	<ul style="list-style-type: none"> 単独あるいはペアやグループ内で身近な話題について話し合う中で、情報や他者の考えなどを理解した上で、自分の考えを的確に伝える能力を養う。 英作文の課題を課し、学習した単語・連語・構文・文法知識などの定着を図るとともに、自分の考えや意見が理解されるように、整理して表現する力を養う。 英語によるスピーチをする上で必要な構成や発表の仕方について学習する。 	毎時間、単独あるいはペアやグループでの活動の時間を設定し、英語で自己を表現するためのトレーニング活動を行う。	中間考查
	スピーチ Lesson9 Lesson10 ロールプレイ	9			
		10			
		11			
		12			
[課題・提出物等] エッセイライティング、スピーチの原稿等					
[第2学期の評価方法] 定期考查、授業内での小テストやスピーチなどの活動、エッセイライティングの課題等を総合的に評価する。					

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第3学期	単独あるいはグループによるプレゼンテーションを行う。(自分自身や家族・友人、舟入高校、広島、日本の文化などを紹介する。)	1	<ul style="list-style-type: none"> ・1, 2学期に学習した内容を復習し、さらに発展させるための活動を行う。 ・身近な問題について良い点や悪い点、自分の意見を即興で述べられるようにする。 ・パブリックスピーキングの活動に必要な構成・文法・語彙・効果的な発表の仕方などについての基礎知識のより一層の定着を図る。 ・300語程度の作文を書けるようにする。 ・1分間で90語程度のスピーチを話せるようにする。 	毎時間、単独あるいはペアやグループでの活動の時間を設定し、英語で自己を表現するためのトレーニング活動を実施する。	学年末考查
		2			
		3			
	【課題・提出物等】エッセイライティング、プレゼンテーションの原稿等				
	【第3学期の評価方法】第3学期だけの評価は行わず、年間を通した評価を行う。				

【年間の学習状況の評価法】各学期における定期考查、授業内での小テストやプレゼンテーションの内容、エッセイライティングの課題等を総合的に判断して年間の評価とする。

確かな学力をつけるアドバイス	授業内では、まずは間違えることを恐れずに積極的に英語を話すことが重要である。授業で学習した重要表現や、自分が発表する予定になっているショウアンドテル、スピーチなどのプレゼンテーションの内容は意味を理解した上で何回も口に出して練習し、英文を見なくても言えるようにすることが大切である。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	英語で授業が行われるので、発言は英語で行う。理解できないことがある場合は積極的に質問をすること。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	身近な話題・場面・状況において、聞いたり、読んだりした内容について、積極的に自分の意見や考えを述べようとする。	定期考查、エッセイノートの提出状況、授業内でのスピーチやディスカッション、リスニングなどの活動への参加状況等を総合的に判断する。
表現の能力	身近な話題・場面・状況において、聞いたり、読んだりして得た情報に関して、自分の意見や考えを相手に理解されるように整理して表現することができる。	定期考查、エッセイノートの提出状況、授業内でのスピーチやディスカッション、リスニングなどの活動への参加状況等を評価する。スピーチでは1分間に90語程度、ディスカッションでは1分間に60語程度、英作文では300語程度を規準とする。
理解の能力	身近な話題・場面・状況において、英語を読んだり、聞いたりして、内容を正しく理解した上で、英語を正確に伝えることができる。	定期考查、エッセイノートの提出状況、授業内でのスピーチやディスカッション、リスニングなどの活動への参加状況等を理解の能力の観点で、総合的に判断する。
知識・理解	言語や言語の運用についての基本的な知識を身につけ、様々な国の文化や身近な話題に関する人々のものの見方や考え方などの違いについて理解している。	定期考查、エッセイノートの提出状況、授業内でのスピーチやディスカッション、リスニングなどの活動への参加状況等を知識・理解の観点で、総合的に判断する。

3 担当者からのメッセージ

とにかく英語を声に出すことを心がけてください。習うより慣れるという感じで、楽しみながら頑張りましょう。

教科名	科目名	単位数	履修学年	区分・型(文型・理型)	全員/選択
外国語(英語)	英語I	3単位	第1学年	普通科・普通 普通科・国際コミュニケーションコース	全員

1 学習の到達目標

学習の到達目標	日常的な話題について聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で表現したり書いたりして伝える基礎的な能力を養うとともに積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる
使用教科書・副教材等	使用教科書 『PRO-VISION ENGLISH COURSE I』(桐原書店)

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第1学期	Warm-up	4	高1における英語学習の確認と定着	辞書を引く	中間考查 lesson1,2
	Lesson 1 Boys and Girls, Be Courageous!	5	・ディスカッションを読み、人生の指針を考える ・音読する ・動詞の型/動詞の形/不定詞と動名詞	・音読活動を毎時間行なう (コーラス、リピート、シャドウ、バズ、ラウド、ウィスパー)	
	Lesson 2 The Nicest Present	6	・物語文を読んで、愛や思いやりについて考える ・ストーリーを作る ・分詞の形容詞用法/現在完了形/It is + 形容詞 + that	・1分間に120語の速さで音読ができることを目標とする	期末考查 lesson 3,4
	Lesson 3 We All Love Rice	7	・説明文を読み、食と異文化について考える ・ストーリーを作る ・関係代名詞/seem [appear] to ~ /SVC	・英問英答やリスニングを行う	
	Lesson 4 A Key to Open Our Hearts		・説明文を読み、ボランティアと人間について考える ・インタビューの内容を伝える ・関係代名詞what/SV(O)O		
【課題・提出物等】 春課題やノート等の提出物は教科担当の指示に従って、指定された期日・場所に提出する。					
【第1学期の評価方法】 春課題テストと中間・期末考查の定期考查に平常点(出席状況、授業中の態度、特に音読への参加状況、提出物の状況、授業中の小テストの得点等、なお、音読活動は、1分間に120語の速さで音読できることを規準とする)を加味して総合的に判断して評価する。					

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第2学期	Lesson 5 Asako Lives on	8	・説明文を読み、命の尊さと家族愛について考える ・手紙の内容をまとめる ・助動詞 + 受け身/過去完了形/仮定法過去	音読活動を毎時間継続する (コーラス、リピート、シャドウ、バズ、ラウド、ウィスパー)	中間考查 lesson 5,6
	Lesson 6 We All Share This Earth	9	・説明文を読み、自然環境について考える ・短いスピーチを作る ・関係代名詞の非制限用法/現在完了形/関係副詞	・1分間に120語の速さで音読ができることを目標とする	
	Lesson 7 An Architect for the Environment	10	・説明文を読み、環境保護について考える ・スキットを作る ・動名詞/過去完了進行形	・英問英答やリスニングを行う	期末考查 lesson 7,8
	Lesson 8 Lessons from a Tomato Plant	11	・説明文を読み、能力と可能性について考える ・作文を書く ・SVOO(that節)/形式目的語のit/SVC(過去分詞)		
【課題・提出物等】 夏課題やノート等の提出物は教科担当の指示に従って、指定された期日・場所に提出する。					
【第2学期の評価方法】 夏課題テストと中間・期末考查の定期考查に平常点(出席状況、授業中の態度、特に音読への参加状況、提出物の状況、授業中の小テストの得点等、なお、音読活動は、1分間に120語の速さで音読できることを規準とする)を加味して総合的に判断して評価する。					

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第3学期	Lesson 9 Where Is Santa Claus from?	1	・説明文を読み、歴史と文化について考える ・ストーリーを作る	音読活動を毎時間徹底する。 (コーラス、リピート、シャドウ、バズ、ラウド、ウisper) ・1分間に120語の速さで音読ができることを目標とする ・英問英答やリスニングを行う	学年末考查 lesson 9,10,11
	Lesson 10 A Mason-Dixon Memory	2	・関係副詞・非制限用法/助動詞 + have + 過去分詞/SVOC (現在分詞)		
		3	・エッセイを読み、友情と共生について考える ・e-mailを書く ・分詞構文/不定詞/SVOC (原形不定詞)		
Lesson 11 To Make the Earth a Better Place to Live in		・説明文を読み、国際貢献と平和について考える ・写真を見て感想を述べる ・仮定法過去完了/recommend that ... + (should) 動詞の原形/強調構文			
【課題・提出物等】 冬課題やノート等の提出物は教科担当の指示に従って、指定された期日・場所に提出する。					
【第3学期の評価方法】 冬課題テストと中間・期末考查の定期考查に平常点(出席状況、授業中の態度、特に音読への参加状況、提出物の状況、授業中の小テストの得点等、なお、音読活動は、1分間に120語の速さで音読できることを規準とする)を加味して総合的に判断して評価する。					

【年間の学習状況の評価法】

各学期での評価を総合的に判断して年間の評価とする。

確かな学力をつけるアドバイス	・教科書の単語がすべて読み、単語・熟語の意味をすべて言えて、書けるようにする。 ・教科書の本文がスラスラ音読できて、文脈に沿って訳せるようにする。 ・教科書の問題が解けるようにする。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	・授業中には必ずノートを取り授業内容を理解するように努める。 ・授業中に英語をリズムよく、たくさん声に出して音読する。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	コミュニケーションの関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	活動観察(音読、ペアワーク、発表) ペ - パーテスト、ワークシートチェック、作文チェック、ノートチェック
表現の能力	日常的な話題について、情報や考えなど伝えたいことを英語で話したり、書いたりして表現する。	活動観察(音読、ペアワーク、発表、なお、音読活動は、1分間に120語の速さで音読できることを規準とする) ペ - パーテスト、ワークシートチェック、作文チェック、ノートチェック
理解の能力	日常的な話題について、英語を聞いたり、読んだりして、情報や考えなど相手が伝えようとすることを英語で理解する。	ペ - パーテスト、ワークシートチェック、作文チェック、ノートチェック
知識・理解	日常的な話題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある文化などを理解している。	ペ - パーテスト、ワークシートチェック、作文チェック、ノートチェック

3 担当者からのメッセージ

中学の英語と違って、高校の英語はレベルが高くなるのはもちろん、学習内容が多くなり、授業のペースも速くなる。中学校と同じ勉強のやり方では、ついていけなくなってしまう。高校の英語学習を軌道に乗せるために、次の3点に注意して欲しい。 予習・ノート作りを習慣化する。 英語を何度も聞き、何度も音読する。 辞書を引く。以上。

教科名	科目名	単位数	履修学年	区分・型(文型・理型)	全員/選択
英語	総合英語	2単位	第1学年	普通科・国際コミュニケーションコース	全員

1 学習の到達目標

学習の到達目標	日常生活の身近な話題について、英語を聞いたり話したりして、情報や考えなどを理解し、伝える基礎的な能力を養うと共に、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。
使用教科書・副教材等	『Planet Blue Oral Communication 1』、『DUALSCOPE総合英語』、『DUALSCOPE English Grammar in 28 Stages』、自主作成プリント

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第1学期	英文法の学習 Lesson 1～3 文の要素と文型、 Lesson 5～8 時制 Lesson 9～11 助動詞、 Lesson 12, 13 動詞の態	4 5 6 7	英文法の学習 英語の基礎・基本となる英文法を理解させ、習得させる。 コミュニケーション活動 習得事項に基づくコミュニケーション活動を通じて、知識を定着させるとともに、言語の運用力を高める。	・Call教室あるいはLL教室の特性を生かしてRecitation PracticeやPattern Practiceを取り入れ、数多くの発話練習(Oral Production)を行う。 ・インプットされた知識を定着させるために個人学習ソフト(『広島市立大学開発インプット学習プログラム』)を導入する。	中間考查Lesson 1～8(文の要素と文型、文の種類、時制)、補助プリント 期末考查 Lesson 9～13(助動詞、動詞の態)、補助プリント
	【課題・提出物等】ノートや課題は指定された日時に、指定された場所に提出する。				
【第1学期の評価方法】定期考查、提出物、小テスト。授業に対する関心・意欲・態度などを総合的に評価する。1分間に60語で暗誦できることを評価の規準とする。					

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第2学期	英文法の学習 Lesson 14～16 不定詞 Lesson 17, EL1 動名詞 Lesson 18～20 分詞 Lesson 21, 22, EL2 比較 Lesson 23 関係詞	9 10 11 12	英文法の学習 英語の基礎・基本となる英文法を理解させ、習得させる。 コミュニケーション活動 習得事項に基づくコミュニケーション活動を通じて、知識を定着させるとともに、言語の運用力を高める。	・Recitation Practice, Response Practice, ペアワーク等を行い、インプットされた知識をアウトプットに結びつける活動を継続していく。 ・インプットされた知識を定着させるために個人学習ソフト(文法)を課題を与える形で活用する。	中間考查Lesson 14～17(文の要素と文型、文の種類、時制)、補助プリント 期末考查 Lesson 18～23(助動詞、動詞の態)、補助プリント
	【課題・提出物等】ノートや課題は指定された日時に、指定された場所に提出する。				
【第2学期の評価方法】定期考查、提出物、小テスト。授業に対する関心・意欲・態度などを総合的に評価する。1分間に70語で暗誦できることを評価の規準とする。					

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第3学期	英文法の学習 Lesson 24, 25, EL3 関係詞 Lesson 26, 27 仮定法 Lesson 28 話法	1	英文法の学習 英語の基礎・基本となる英文法を理解させ、習得させる。 コミュニケーション活動 習得事項に基づくコミュニケーション活動を通じて、知識を定着させるとともに、言語の運用力を高める。	・アウトプット面のトレーニングを継続する ・個人学習ソフトを用い、文法及び読解、リスニングの学習を深める	Lesson 24～28(文の要素と文型、文の種類、時制)、補助プリント
		2			
		3			
	【課題・提出物等】ノートや課題は指定された日時に、指定された場所に提出する。				
	【第3学期の評価方法】定期考查、提出物、小テスト。授業に対する関心・意欲・態度などを総合的に評価する。3学期末は1年間の総合評価とする。1分間に80語で暗誦できることを評価の規準とする。				

【年間の学習状況の評価法】各学期での評価を総合的に判断して年間の評価とする。欠課時数については1年間の時数を成績の評価の対象とする。

確かな学力をつけるアドバイス	総合英語の授業では英文法を系統立てて学習します。内容量も多いため予習が不可欠です。予習をすることで自分が分からないところが明確になり、授業を受けた後の授業内容における理解の度合いが全く違ってきます。また、授業中に分からなかった事は、その日の内に質問をし、解決することが大切です。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	・授業開始時間に遅刻しないように教室に入り、着席しておく。 ・予習で分からなかった所を理解できるよう集中し、授業を大切に受ける。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーション能力を磨こうとしたか、間違ふことを恐れず、自分の考えなどを表現しようとしたか。	小テストや週末の課題及びノート提出状況によって評価する。 個人学習ソフトの進捗状況を評価に入れる。
表現の能力	初歩的な英語を用いて、自分の考えや気持ちなどを正しく話したり、書くことができたか。	考查問題に表現を問う問題を作成して評価する。1分間に80語で暗誦できることを評価の規準とする。
理解の能力	初歩的な英語の情報を正しく聞き取り、読み取ることができたか。	考查問題に読解とリスニングの問題を入れ、正しく聞き取り、読み取ることができるかを評価する。
知識・理解	言語や言語の運用についての基本的な知識、例えば、文の構造などについての知識を身につけたか、また、学習の中で取り扱われた文化について、例えば、物の見方や考え方などの違い、身近な生活・風俗習慣等を理解できたか。	単語、発音、構文、文法を問う問題を設定して評価する。

3 担当者からのメッセージ

予習をきちんとし、授業を受けて下さい。

教科名	科目名	単位数	履修学年	区分・型(文型・理型)	全員/選択
外国語(英語)	英語	3単位	第2学年	普通科・国際コミュニケーションコース	全員

1 学習の到達目標

学習の到達目標	幅広い話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える能力を更に伸ばし、積極的にコミュニケーションを図ることができるようにする。
使用教科書・副教材等	教科書 『CROWN English Series 』三省堂 副教材 『Transfer 新しい総合問題演習 Cコース』 桐原書店 『英文必修問題精講』 旺文社

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第1学期	Lesson 1 Looking at Things, East and West	4 5 6 7	・ものの見方における東西文化の違いの一考察を知る ・他国の文化を理解し、受け入れる ・「関係代名詞(非制限用法)」、「関係副詞(非制限用法)」、「形式目的語 it」を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・新出単語・語句の意味を確認し、CDやテープを使って音読練習をする ・1分間に130語の速さで音読ができることを目標とする ・教科書のQuestionなどを用いて英問英答をする ・リスニングやディクテーションを行う ・各単元終了後、本文で取り扱った題材について120語以上のエッセイを書く ・個人学習ソフト(広島市立大学の「インプット学習プログラム」)を使用して、「聞く」「読む」及び、「言語(文法)」の正確さと即時性を高めていく 	中間考查 Lesson 1,2
	Lesson 2 Dreamtime - Australian Aborigines and the Art of Living -		・アボリジニのアートと彼らの置かれた過酷な歴史を知る ・民族の文化とアイデンティティーの関係について学ぶ ・「分詞構文(否定・受け身)」、「It ~ thatの構文」、「助動詞 + 受け身」を学ぶ		
	Lesson 3 Crossing the Border - Medecins sans Frontieres		・ボランティア活動とその意義を知る ・スピーチの形式を知る ・「S+V+C(C = whether節)」、「強調構文」、「過去完了進行形」、「不定詞 + 前置詞」を学ぶ		期末考查 Lesson 3,4
	Lesson 4 Outside the Box		・発想の転換について知る ・インタビューの形式を知る ・「前置詞 + 関係代名詞」、「不定詞の受け身」、「S+is+C(C = whether節)」を学ぶ		
【課題・提出物等】 週末課題やノート等の提出物は教科担当者の指示により指定された期日・場所に提出する。					
【第1学期の評価方法】 春課題テストや定期考查、小テストの結果、及びノート提出で評価を行う。					

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第2学期	Lesson 5 Mars - The Only Way Out ? -	8 9 10 11 12	・未知のものを科学的、論理的に分析する ・レポートの形式を知る ・「未来完了形」、「未来進行形」、「不定詞(結果)」を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・新出単語・語句の意味を確認し、CDやテープを使って音読練習をする ・1分間に135語の速さで音読ができることを目標とする ・教科書のQuestionなどを用いて英問英答をする ・リスニングやディクテーションを行う ・各単元終了後、本文で取り扱った題材について150語以上のエッセイを書く ・個人学習ソフトを使用して、「聞く」「読む」及び、「言語(文法)」の正確さと即時性を高めていく 	中間考查 Lesson 5,6
	Lesson 6 Singlish Bad; English Good		・新聞の形式を知る ・シンガポールの言語事情を知る ・様々な英語について知る ・「倒置」、「譲歩」を学ぶ ・「比較級 + than + S + V」を復習する		
	Lesson 7 Wilderness in a Bottle		・動植物との共生を考える ・自分にできる環境保護運動について考える ・「仮定法現在」、「助動詞 + 完了形」、「助動詞 would の用法」を学ぶ		期末考查 Lesson 7,8
	Lesson 8 Zero Landmines		・地雷の被害とそれを取り除く活動に携わる人々を知る ・テレビ番組の形式に慣れる ・「分詞構文(完了形)」、「不定詞の完了形」、「受け身の進行形」を学ぶ		
【課題・提出物等】 週末課題やノート等の提出物は教科担当者の指示により指定された期日・場所に提出する。					
【第2学期の評価方法】 夏課題テストや定期考查、小テストの結果、及びノート提出で評価を行う。					

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第 3 学 期	Lesson 9 Why Symmetry ?		<ul style="list-style-type: none"> ・生物の進化の過程を知る ・地球外生命体の形状を考察する ・科学系書式の形式を知る ・「独立分詞構文」、「if 節のない仮定法」、「不定詞の意味上の主語」を学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・新出単語・語句の意味を確認し、CDやテープを使って音読練習をする ・1分間に140語の速さで音読ができることを目標とする ・教科書のQuestionなどを用いて英問英答をする ・リスニングやディクテーションを行う ・各単元終了後、本文で取り扱った題材について180語以上のエッセイを書く ・個人学習ソフトを使用して、「聞く」「読む」及び、「言語(文法)」の正確さと即時性を高めていく 	学年末考查 Lesson 9,10
	Lesson 10 Letters to Superman	1 2 3	<ul style="list-style-type: none"> ・生物の進化の過程を知る ・地球外生命体の形状を考察する ・科学系書式の形式を知る ・障害について知り、障害を持ちながら生きることを考える ・手紙の形式を知る ・「seem to have ~」、「動名詞の意味上の主語」、「動名詞の受け身」を学ぶ 		
	<p>【課題・提出物等】 週末課題やノート等の提出物は教科担当者の指示により指定された期日・場所に提出する。</p> <p>【第3学期の評価方法】 冬課題テストや定期考查、小テストの結果、及びノート提出で評価を行う。</p>				

【年間の学習状況の評価法】
年間を通した総合評価を行う。

確かな学力をつけるアドバイス	「継続は力なり」。テストや課題提出の直前になってあわてるのではなく、きちんと計画を立て、毎日コツコツと取り組むようにしてください。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	<ul style="list-style-type: none"> ・予習復習を必ずすること ・配布されたプリント等はファイル等に整理しておくこと

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	聞いたこと・読んだことを理解し、様々な情報や自分の考えを英語で用いて表現し、積極的にコミュニケーションを図ろうとする。	定期考查、授業中の発表、小テストやノート提出状況等によって評価する。
表現の能力	幅広い話題について、情報や考えなどを伝えたいことを整理して英語で話したり、書いたりして表現する。	定期考查、英問英答、エッセイ等によって評価する。
理解の能力	幅広い話題について、英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなど相手が伝えようとすることを整理して理解する。	定期考查、英問英答、リスニングによって評価する。
知識・理解	幅広い話題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある文化などを理解している。	定期考查、英問英答、エッセイ等によって評価する。

3 担当者からのメッセージ

1年次よりも英文の量が増え、内容が高度になります。付け焼き刃的な学習では対応できません。計画的に継続して学習するようにしてください。

教科名	科目名	単位数	履修学年	区分・型(文型・理型)	全員/選択
英語	英語表現	2単位	第2学年	普通科・国際コミュニケーションコース	全員

1 学習の到達目標

学習の到達目標	1 積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を身につける 2 相手によくわかるように英語を話し・書く。例えば、1文で終わるのではなく、例を示すなど、具体的な説明を加える。また、身につけている限られた英語力で、伝えたいことを表現するための工夫をする。工夫を施す上で、正しい英文を書くのに必要な語彙・文法・構文などに関する知識を身につけ、運用できるようにする。 3 論理的に意見を述べるができる 4 段落の展開など、構成に留意した文章を書くことができる 5 英語を話し・書く活動の背景なる文化や社会などについて関心と理解を深めた上で、自分の意見を持ち、それを的確に表現することができる
使用教科書・副教材等	Impact ISSUES (Longman)

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第1学期	・ <u>エッセイの書き方(1)</u> ・ <u>ディスカッション(1)</u> ・ <u>Peer Revision(1)</u> ・ <u>即興スピーチ(1)</u> ・ <u>ディスカッション(2)</u> ・ <u>Peer Revision(2)</u> ・ <u>エッセイの書き方(2)</u> ・ <u>Peer Revision(3)</u> ・ <u>ディスカッション(3)</u>	4	・300語程度のエッセイを書くための基礎知識を学習する ・スピーキング能力の向上とコミュニケーションを図ろうとする積極的な態度の育成を図る ・自分の考えなどを整理して書くという言語活動 ・即興でのスピーキング力の養成	・生徒の言語活動を活発にインストラクトする形でAETの位置づけに留意する	インタビューテストとエッセイライティング
		5			
		6	・「話すこと」「書くこと」によって自分の考えや気持をより効果的に伝える力の育成。Peer Revisionでは、他の生徒の書いた英文に的確なコメントを加えることができるよう、読み手としての力量も高める	・ <u>毎時間、流暢さの向上を図るためのトレーニングを授業内に行う(通年)</u>	与えられた4つの題材について、限られた時間内にエッセイを書く
		7			
期	【課題・提出物等】 1 Peer Revision(1)(2)(3)において、それぞれDraft1～Draft3の提出 2 ディスカッションで扱う題材に関して、事前の読解、リサーチを求める予習プリントなどが随時課題として与えられる				
【第1学期の評価方法】 1 ディスカッションなど、インタラクティブな活動における積極性を評価する 2 Peer Revision(1)(2)(3)それぞれのDraft 3について、ESL Composition Profile 評価基準に基づき100点満点で評価する 3 定期考査におけるインタビューテスト(20点)、エッセイライティングのテスト(80点)、を評価する 4 即興スピーチを15点満点で評価する					

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第2学期	・ <u>パブリックスピーチ</u> ・ <u>ディスカッション(4)</u> ・ <u>Peer Revision(4)</u> ・ <u>インフォーマル・ディベート(1)</u> ・ <u>ディスカッション(5)</u> ・ <u>Peer Revision(5)</u> ・ <u>Show & Tell</u> ・ <u>ディスカッション(6)</u> ・ <u>Peer Revision(6)</u> ・ <u>ロール・プレイング</u>	8	・コミュニケーション活動としてのスピーチの実践。発表者として、また、聞き手としてのスピーチ活動の理解を深める	夏期休暇中の課題として、スピーチ原稿を完成させる	インタビューテストとエッセイライティング
		9			
		10	・コミュニケーション活動としてのディベートの実践。論理的に意見構成する力、相手の発言を正確に聞き取る力、限られた時間内に意見をまとめ、発言する力の養成を図る。スピーキングにおける流暢さ、即時性を高める	即興性を要求する活動としてインフォーマル・ディベートを位置づける	与えられた4つの題材について、限られた時間内にエッセイを書く
		11			
期	・プレゼンテーション活動。自らが調べた事柄をいかに聞き手にわかりやすく、且つ、興味を引くよう伝えることができるか、その手法を研究し、効果的に実践する				
・コミュニケーション活動としてのスキット。3,4人のグループで与えられたシチュエーションをもとに即興のスキットを演じる。伝えたいことをいかに、興味深く、効果的に伝えられるかについて考え、実践する					
【課題・提出物等】 1 パブリックスピーチの原稿の提出 2 Peer Revision(4)(5)(6)において、それぞれDraft1～Draft3の提出 3 ディスカッションで扱う題材に関して、事前の読解、リサーチを求める予習プリントなどが随時課題として与えられる					
【第2学期の評価方法】 1 プレゼンテーション、インフォーマル・ディベートにおける積極的な態度を評価する 2 Peer Revision(4)(5)(6)それぞれのDraft3について、ESL Composition Profile 評価基準に基づき100点満点で評価する 3 定期考査における、インタビューテスト(20点満点)、エッセイライティングのテスト(80点)を評価する 4 パブリックスピーチを20点満点で評価する					

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第3学期	・エッセイの書き方(3) ・ディスカッション(7) ・Peer Revision(7)	1	・ディスカッションを通してブレインストーミングを行い、自分でリサーチを加えつつ、論理的・客観的かつ説得力のある文章を書く力の育成を図る	・具体的な統計データなどを用いて説得力を持たせることを理解させる	与えられた4つの題材について、限られた時間内にエッセイを書く
	・グループ・プレゼンテーション	2 3	・グループごと、テーマにそったリサーチを行い、十分な調査・研究に基づいた、客観的で説得力のあるプレゼンテーションを行う活動。論理的なプレゼンテーションを構成し、聞き手にわかりやすく発表する力を問う	・論を深めるためのリサーチの重要性と発表に説得力を持たせるためのプレゼンテーションにおける工夫について考えさせる	
	・インフォーマル・ディベート(2) ・ディスカッション(8) ・Peer Revision(8) ・即興スピーチ(2)		・3学期は特に、「要約」の仕方に焦点を当てて、議論能力の向上を図る		
	【課題・提出物等】 1 Peer Revision(7)(8)において、それぞれDraft1～Draft3の提出 2 ディスカッションで扱う題材に関して、事前の読解、リサーチを求める予習プリントなどが随時課題として与えられる 3 グループプレゼンテーションのアウトラインにつきまとめ、提出する				
	【第3学期の評価方法】 1 授業への積極的な参加。特に、インタラクティブな活動における積極性 2 Peer Revision(7)(8)それぞれのDraft3について、ESL Composition Profile 評価基準に基づき100点満点で評価する 3 考查では、エッセイライティングのテスト(100点満点)を評価する 4 即興スピーチを15点満点で評価する				

【年間の学習状況の評価法】
各学期での評価を総合的に判断し、年間の評価とする。

確かな学力をつけるアドバイス	読み手、聞き手が理解しやすく、かつ説得力を持った表現とはなにかを追究する。そうすることで論理的に文章を構成する力、説得力のある発言や発表の仕方が身に付きます
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	提出物の提出期限を必ず守ること。特に、エッセイの提出が遅れるとPeer Revisionが機能しなくなるため年8回のエッセイは期日内に必ず提出しなければならない。 年間を通じて行う、流暢さを高めるトレーニングやディスカッション、ディベート、プレゼンテーションの場面で積極性を発揮すること。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	身近な話題について、聞いたり、読んだりして得た情報やその話題についての自分の考えや感じたことなどを読み手や聞き手に理解されるよう英語で表現しようとしている。 伝えたい内容を正確に表現するための工夫をしている。 エッセイを書いたり、ディスカッションしたりする際に必要となる、文化や社会の事柄についての関心と理解を深めようとする態度を持っている。	1 インタビューテストの評価点 2 パブリックスピーチ、および即興スピーチの評価点 3 定期考査の得点 4 授業中の様々な表現活動において、積極的にあったか、発言が論理的で説得力のあるものであったかなど
表現の能力	自分の考えや感じたことなどを読み手や聞き手に理解されるよう、適切な英語で表現できている。 論理的な文章表現、スピーチの内容などに論理性があり説得力を持った発話ができている。	1 年8回提出するエッセイの評価点 2 インタビューテストの評価点 3 パブリックスピーチ、および即興スピーチの評価点 4 定期考査の得点 5 WSAテスト(「話す」力は1分間に70語の早さ、「書く」力は、即時性において1分間に75語を目標値とする) 6 授業中の様々な表現活動において、じっくり考えて発言できているか、また、主体性を持って判断しているかなど
理解の能力	エッセイライティングやスピーチ、ディスカッションなどの活動において、効果的な資料の提示や客観的で説得力のある内容のものが構成されているか。	1 年8回提出するエッセイの評価点 2 パブリックスピーチ、および即興スピーチの評価点 3 定期考査の得点 4 WSAテスト(「話す」「書く」の表現において、語法・構文力・構成の技量を得点化する) 5 授業中のプレゼンテーション、インフォーマルディベートやディスカッションにおいて、資料活用の有効性や表現の適切さなど
言語や文化についての知識・理解	正しい英文を書き、話すのに必要な語彙・文法・構文・文章の構成に関する知識を身につけている。 エッセイライティングにおいて、段落の展開、あるいは段落ごとのつながりに留意した英文を書くことができる。 外国の事情や自国の事情、異文化を理解するための背景知識を持っている。	1 年8回提出するエッセイの評価点 2 インタビューテストの評価点 3 パブリックスピーチ、および即興スピーチの評価点 4 定期考査の得点 (実用英語検定試験2級程度の文法知識を身につけることを目標とする)

3 担当者からのメッセージ

客観的に物事を判断し、考え、そして自分の考えを論理性を持たせて表現できるようになることを目標としています。そのためには、500語程度の英文を書くことに早く慣れること。また、正しく、流暢に英語を話せるようになりたいという強い気持ちを持ち続けることが大切です。

教科名	科目名	単位数	履修学年	区分・型(文型・理型)	全員/選択
英語	異文化理解	2単位	第2学年	普通科・国際コミュニケーションコース	全員

1 学習の到達目標

学習の到達目標	(1)幅広い題材の教材を使用して、多様な話題に関する人々のものの見方や考え方の違いを理解する。 (2)コンピュータやLLなどを利用することにより、英語の音声的な特徴を習得する。 (3)積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。
使用教科書・副教材等	(1)英語リピーティング入門(アルク) (2)Pronunciation Power CD(Blackstone Multimedia Corporation) (3)個人学習ソフト(「広島市立大学インプット学習プログラム」) (4)自主作成教材

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第1学期	(1)英語リピーティング入門 Part-1 Unit1 ~ Unit11 (2)Pronunciation Power 11個の発音記号とそれに関連する単語・聞き分け問題・文章 (3)個人学習ソフト (4)自主作成教材	4	(1)スピーキング・リスニングの基礎となるストレス・リズム・イントネーションなどに焦点を当て、基本練習をする。各ユニットの英文を一分間に85語の速さで正確に再現し発表できるようになるまで音読・復誦・シャドウイング・暗誦活動を行う	スピーキングの流暢さの向上を図る活動を毎時間行う	期末考查
		5	(2)個々の母音・子音を発音する際の口や舌の形・動き・位置等を習得する。類似音を正しく聞き分ける。音読・復誦・シャドウイング・暗誦活動を行う(年間)		
		6	(3)TOEICレベルの英語問題の演習を通じて聞く力の正確さを高める(年間)		
		7	(4)聞き取りと書き取りの小テストを行う。日本文化や異文化を扱った題材を使用する(年間)		
【課題・提出物等】教科書の英文スクリプトCDを家庭でも活用する。					
【第1学期の評価方法】定期考查、授業内での小テストやペアワークなどの活動等を総合的に評価する。					

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第2学期	(1)英語リピーティング入門 Part-2 Unit1 ~ Unit15 (2)Pronunciation Power 15個の発音記号とそれに関連する単語・聞き分け問題・文章 (3)個人学習ソフト (4)自主作成教材	9	(1)喜怒哀楽の感情表現はじめとして、会話における効果的な話し方を中心に練習する。各ユニットの英文を一分間に90語の速さで正確に再現し発表できるようになるまで音読・復誦・シャドウイング・暗誦活動を行う	スピーキングの流暢さの向上を図る活動を毎時間行う	期末考查
		10	(2)連結・同化・短縮形・脱落等の音変化プロセスを理解し、習得する。音読・復誦・シャドウイング・暗誦活動を行う(年間)		
		11	(3)演習を継続することと、フィードバックを行うことで正確さと同時に即時性も高めていく。		
		12	(4)小テスト終了後すぐにスクリプトを配布し問題の英文を見ながら再度聞き取りを行う。各自が自分のミスの傾向を分析し、自分なりの課題を設定する。(年間)		
【課題・提出物等】(1)教科書の英文スクリプトCDを自由課題として家庭でも反復練習に活用する。 (2)学期に1回、音声による課題(120語)を与え、録音したものを提出させる。					
【第2学期の評価方法】定期考查、音声課題、授業内での小テストやペアワークなどの活動等を総合的に評価する。					

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第3学期	(1)英語リピーティング入門 Part-3 Unit1 ~ Unit5 (2)Pronunciation Power 5個の発音記号とそれに関連する単語・聞き分け問題・文章 (3)個人学習ソフト (4)自主作成教材	1	(1)自己紹介・ディスカッション・演説などが行われている具体的な場面を取り上げ、より実践的なスピーキングの練習をする。各ユニットの英文を一分間に95語の速さで正確に再現し発表できるようになるまで音読・復誦・シャドウイング・暗誦活動を行う。	スピーキングの流暢さの向上を図る活動を毎時間行う	期末考查
		2	(2)1行~3・4行文(5~40語)の音読・復誦・シャドウイング・暗誦活動を行う(年間)		
		3	(3)演習を継続し、正確さと即時性の更なる向上を図る。 (4)対話文・説明文・報道文等様々な形態の教材に対応できるようにする(年間)		
【課題・提出物等】(1)教科書の英文スクリプトCDを家庭でも活用する (2)学期に1回、音声による課題(150語)を与え、録音したものを提出させる					
【第3学期の評価方法】定期考查、音声課題、授業内での小テストやペアワークなどの活動を総合的に評価する。					

[年間の学習状況の評価法] 各学期の評価項目を1年間の評価項目として総合的に評価する。

確かな学力をつけるアドバイス	発声することへの恥ずかしさや間違えることに対する抵抗をなくする。LL教室の特性を生かして、大きな声で正確なトレーニング活動を行う。ペアワーク活動時には相互に良い点・問題点等を言い合い、高めあう。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	授業中に与えられる各自の活動時間の中で、できるだけたくさんのトレーニング活動を行おうとする姿勢と意欲を持つ。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	相手の話を関心を持って聞き、積極的にコミュニケーションしようとする。言語活動を通して、異文化への関心と理解を深めようとする	定期考查、小テスト、音声課題の結果や、インプット学習プログラムの正答率と解答時間、また、授業内でのトレーニング活動(単独・ペア・全体)をモニターすることなどを通じて総合的に判断する
表現の能力	正しい音声で話すことができる。幅広い話題・場面・状況において、自分の考えや意見、感情などを流ちょうかつ正確に表現することができる	定期考查、小テスト、音声課題の結果や、インプット学習プログラムの正答率と解答時間、また、授業内でのトレーニング活動(単独・ペア・全体)をモニターすることなどを通じて総合的に判断する
理解の能力	幅広い話題に関する英文を聞いて、情報や話し手の意向などを正確に理解できる。話された質問、指示、依頼などに対して適切に応じることができる	定期考查、小テスト、音声課題の結果や、インプット学習プログラムの正答率と解答時間、また、授業内でのトレーニング活動(単独・ペア・全体)をモニターすることなどを通じて総合的に判断する
知識・理解	英語の音声的な特徴を理解している。様々な国の文化や幅広い話題に関する人々のもの見方や考え方の違いについて理解している	定期考查、小テスト、音声課題の結果や、インプット学習プログラムの正答率と解答時間、また、授業内でのトレーニング活動(単独・ペア・全体)をモニターすることなどを通じて総合的に判断する

3 担当者からのメッセージ

ヘッドセットをつけたら、自分だけの世界で集中し、正確に聞き取り、積極的に発声しましょう。同時に、なりきり度を高め、感情を込めた表現をしてください。このような練習することを通じて、確かな英語運用能力の基礎を築くことができます。

教科名	科目名	単位数	履修学年	区分・型(文型・理型)	全員/選択
英語	総合英語	2単位	第3学年	普通科・国際コミュニケーションコース	全員

1 学習の到達目標

学習の到達目標	情報や相手の意向などを理解し、情報や考えなどを英語で伝える能力を伸ばすとともに、英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につける。
使用教科書・副教材等	『英語標準問題1000』桐原書店 個人学習ソフト(『広島市立大学インプット学習プログラム』)

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第1学期	1動詞の語法(1) 2動詞の語法(2) 3時制 4態 5助動詞 6仮定法 7不定詞 自習範囲: 10動詞を含むイディオム 14形容詞・副詞を含むイディオム	4 5 6 7	英語で表現する、あるいは英語を理解するための基礎となる知識を改めて整理する。 学習した連語・構文・文法知識などを活用して、正確な英文を書けるように、また、英文を的確に理解できるようにする。 自分の考えなどを整理して、論理的で、正確で、適切な英語で表現する。	定期的に、80～100語程度で自分の考えを表現する活動を行う。 <u>基本例文については暗唱することを徹底する。</u>	中間考查 1～3章 期末考查 4～7章
	【課題・提出物等】 授業ノートを考查ごとに提出する。学期に数回、80～100語程度で自分の考えを英語で表現したものを提出する。				
	【第1学期の評価方法】 定期考查、英作文などの課題の提出状況、および授業に対する態度をもとに総合的に評価を行う。				

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第2学期	8動名詞 9分詞 11形容詞の語法 12副詞の語法 13比較 15冠詞と名詞の語法 16代名詞の語法 18関係詞の用法 自習範囲: 17名詞を含むイディオム 20前置詞と群前置詞の用法 24時制の一致と話法 25会話表現	9 10 11 12	英語で表現する、あるいは英語を理解するための基礎となる知識を改めて整理する。 学習した連語・構文・文法知識などを活用して、正確な英文を書けるように、また、英文を的確に理解できるようにする。 自分の考えなどを整理して、論理的で、正確で、適切な英語で表現する。	定期的に、80～100語程度で自分の考えを表現する活動を行う。 <u>基本例文については暗唱することを徹底する。</u>	中間考查 8～12章 期末考查 13～18章
	【課題・提出物等】 授業ノートを考查ごとに提出する。学期に数回、80～100語程度で自分の考えを英語で表現したものを提出する。				
	【第2学期の評価方法】 定期考查、英作文などの課題の提出状況、および授業に対する態度をもとに総合的に評価を行う。				

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第 3 学 期	19接続詞の用法 21主語と動詞の一致 22疑問文と語順 23否定・強調・省略	1 2 3	学習した連語・構文・文法知識などを活用して、正確な英文を書けるように、また、英文を的確に理解できるようにする。	個人学習ソフトを用いて自学自習を行う。 定期的に、80～100語程度で自分の考えを表現する活動を行う。	19～23章
	【課題・提出物等】 授業ノート、及び、80～100語程度で自分の考えを英語で表現したものを提出する。				
	【第3学期の評価方法】 3学期だけの評価は行わず、年間を通した評価を行う。				

【年間の学習状況の評価法】
各学期での評価を総合的に判断して年間の評価とする。

確かな学力をつけるアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> 授業を大切に受け、十分に準備をして定期考査等にのぞむ。 わからないところを放っておかず、必ず質問するなどして、解決する。 計画的に課題に取り組み、学習した内容をすぐ復習をする。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	<ul style="list-style-type: none"> 授業中には、集中してノートを取り、授業内容を理解するように努める。 提出物の期限を厳守する。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	語彙、文法、文構造などに関心を抱き、学習した内容を活用して、積極的に自分の考えを表現しようとする態度を持っているか。	課題の提出状況、授業への参加状況などを総合的に判断して評価する。
表現の能力	学習した、語彙、文法、文構造などの知識を活用して、正確な英文を書くことができるか。	定期考査の評価点、及び、英作文の課題を評価する。 <u>1分間に100語の速さで暗誦ができることを規準とする。</u>
理解の能力	学習した、語彙、文法、文構造などの知識を活用して、的確に英文を理解することができるか。	定期考査の評価点で評価する。
知識・理解	語彙、文法、文構造などの言語知識を身につけているか。	定期考査、課題などにおいて、総合的に評価する。

3 担当者からのメッセージ

授業や、課題への積極的な取り組みを期待します。

教科名	科目名	単位数	履修学年	区分・型(文型・理型)	全員/選択
英語	英語理解	3単位	第3学年	普通科・国際コミュニケーションコース	全員

1 学習の到達目標

学習の到達目標	英語を通して情報や相手の意向などを理解する能力を一層伸ばすとともに、英語を理解しようとする積極的な態度を身につける。
使用教科書・副教材等	教科書:『現代を探る』桐原書店 副教材:『システム英作文』桐原書店

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第1学期	『現代を探る』 Unit 2 Unit 4 Unit 6 Unit 8 『システム英作文』 4時制 5助動詞 6仮定法 7不定詞	4	『現代を探る』 個々の英文、段落の間の関係を理解し、英文の論理構造についての感覚を磨き、さらには多様なテーマについての知識を吸収し、英文を的確に理解する。 『システム英作文』 自ら英文をつくる活動を通して、これまでに学んだ文法や構文の知識を定着させ、言葉に対するセンスを磨く。	3時間の内2時間は『現代を探る』を扱い、文章の内容や自分の解釈が聞き手に伝わるよう、ポイントになる語句や文、段落の構成、展開に注意しながら音読を毎時間行う。1時間は『システム英作文』を扱う。	中間考查 Unit 2,4 Ch 4,5 期末考查 Unit 6,8 Ch 6,7
		5			
		6			
	【課題・提出物等】 授業ノートを考查ごとに提出する。毎週、「聞き取り」「精読」の課題を提出する。週に2回、「文法」「語彙」の小テストを実施する。				
	【第1学期の評価方法】 定期考查、課題テスト、小テストの結果、課題の提出状況、および授業に対する態度をもとに総合的に評価を行う。				

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第2学期	『現代を探る』 Unit 10 Unit 12 Unit 14 Unit 16 『システム英作文』 8動名詞 9分詞 10態 11比較	9	『現代を探る』 個々の英文、段落の間の関係を理解し、英文の論理構造についての感覚を磨き、さらには多様なテーマについての知識を吸収し、英文を的確に理解する。 『システム英作文』 自ら英文をつくる活動を通して、これまでに学んだ文法や構文の知識を定着させ、言葉に対するセンスを磨く。	3時間の内2時間は『現代を探る』を扱い、文章の内容や自分の解釈が聞き手に伝わるよう、ポイントになる語句や文、段落の構成、展開に注意しながら音読を毎時間行う。1時間は『システム英作文』を扱う。	中間考查 Unit 10,12 Ch 8,9 期末考查 Unit 14,16 Ch 10,11
		10			
		11			
	【課題・提出物等】 授業ノートを考查ごとに提出する。2週間に1回程度、「聞き取り」「精読」の課題を提出する。週に2回、「文法」「語彙」の小テストを実施する。				
	【第2学期の評価方法】 定期考查、課題テスト、小テストの結果、課題の提出状況、および授業に対する態度をもとに総合的に評価を行う。				

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第 3 学 期	『現代を探る』 Unit 18 Unit 20 『システム英作文』 12否定	1	『現代を探る』 個々の英文、段落の間の関係を理解し、英文の論理構造についての感覚を磨き、さらには多様なテーマについての知識を吸収し、英文を的確に理解する。	3時間の内2時間は『現代を探る』を扱い、文章の内容や自分の解釈が聞き手に伝わるよう、ポイントになる語句や文、段落の構成、展開に注意しながら音読を毎時間行う。 1時間は『システム英作文』を扱う。	Unit 18,20 Ch12
		2	『システム英作文』		
		3	自ら英文をつくる活動を通して、これまでに学んだ文法や構文の知識を定着させ、言葉に対するセンスを磨く。		
	【課題・提出物等】 授業ノートを提出する。				
	【第3学期の評価方法】 3学期だけの評価は行わず、年間を通した評価を行う。				

【年間の学習状況の評価法】
各学期での評価を総合的に判断して年間の評価とする。

確かな学力をつけるアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> 授業を大切に受け、十分に準備をして定期考査や小テストにのぞむ。 わからないところを放っておかず、必ず質問するなどして、解決する。 計画的に課題に取り組み、学習した内容をすぐ復習をする。
授業を受けるに当って守ってほしい事項	<ul style="list-style-type: none"> 授業中には、集中してノートを取り、授業内容を理解するように努める。 提出物の期限を厳守する。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	関心・意欲を持って、書き手の意向などを理解しようとしているか。未知の語を推測したり、背景知識を活用したりしながら積極的に読もうとしているか。	小テストへの取り組み、課題の提出状況、授業への参加状況などを総合的に判断して評価する。
表現の能力	ポイントになる語句や文、段落の構成・展開などに注意して音読できるか。学習した構文・文法知識などを活用して、正確な英文を書くことができるか。	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査のライティングの評価点。 授業中の音読でのパフォーマンス。 <u>1分間に160語の速さで音読ができることを規準とする。</u>
理解の能力	書かれている内容を適切に読みとり、必要な情報を得たり、内容についての質問などに適切に応じることができるか。	定期考査のリーディングの評価点。
知識・理解	言語やその運用について、正しい知識を身につけているか。様々な国の文化や、身近な話題に関する人々のものの見方や考え方などの違いについて深く理解しているか。	定期考査、課題などにおいて、総合的に評価する。

3 担当者からのメッセージ

授業や、課題への積極的な取り組みを期待します。

教科名	科目名	単位数	履修学年	区分・型(文型・理型)	全員/選択
英語	英語表現	2単位	第3学年	普通科・国際コミュニケーションコース	選択

1 学習の到達目標

学習の到達目標	様々な情報や自らの意見などを伝える能力をより一層伸ばしながら、その能力を活用し積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。
使用教科書・副教材等	Impact ISSUES(LONGMAN)

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第1学期	前年度使用した教材 Impact ISSUESの中からFamilyとRelationshipsに関する話題を題材として取り上げ、前年度より進んだ内容のessayを書かせる。	4	中間考査までは前年度扱ったUnit 7～12の中から再び取り上げたい内容を題材とし、自らの意見を500語程度のessayにまとめ、発表する。また、中間考査以降期末考査までは、同じくUnit 13～18の中から再び取り上げたい内容を題材とし、自らの意見を500語程度のessayにまとめ、発表する。	毎授業で著名な演説のrecitation(100wpm)や題材に応じたdiscussionに取り組む。peer feedbackやteacher feedbackを通じて、essayの推敲を行う。	中間考査までは、Unit 7～12、中間以降期末まではUnit13～18
		5			
		6			
		7			
	【課題・提出物等】 毎週essayを提出する。				
	【第1学期の評価方法】各授業ごとにおける意見発表等参加の度合いを意欲・関心を中心に個別に評価する。各自の取り上げた題材をessayにまとめさせ、提出されるたびごとに内容を中心に理解度を評価する。お互いが更に優れたessayを書くことができるよう、peer feedback等の活動を通じて、協力しようとする意欲を評価し、また同時にコミュニケーションを図ろうとする意欲も評価する。				

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第2学期	前年度使用した教材 Impact ISSUESの中からLife and DeathとSocietyに関する話題を題材として取り上げ、前年度より進んだ内容のessayを書かせる。	8	中間考査までは前年度扱ったUnit 19～24の中から再び取り上げたい内容を題材とし、自らの意見を800語程度のessayにまとめ、発表する。また、中間考査以降期末考査までは、同じくUnit 25～30の中から再び取り上げたい内容を題材とし、自らの意見を800語程度のessayにまとめ、発表する。	毎授業で著名な演説のrecitation(100wpm)や題材に応じたdiscussionに取り組む。peer feedbackやteacher feedbackを通じて、essayの推敲を行う。	中間考査までは、Unit 19～24、中間以降期末まではUnit25～30
		9			
		10			
		11			
	【課題・提出物等】 毎週essayを提出する。				
	【第2学期の評価方法】各授業ごとにおける意見発表等参加の度合いを意欲・関心を中心に個別に評価する。各自の取り上げた題材をessayにまとめさせ、提出されるたびごとに内容を中心に理解度を評価する。お互いが更に優れたessayを書くことができるよう、peer feedback等の活動を通じて、協力しようとする意欲を評価し、また同時にコミュニケーションを図ろうとする意欲も評価する。				

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第 3 学 期	卒業論文	1	題材は学校生活から社会問題にいたるまで広範囲から各自で自由に選ばせ、最終的には2000語程度のessayをterm paperとして完成させる。	peer feedbackやteacher feedbackを通じて、最終essayを完成する。	卒業考查は実施せず、卒業論文の提出をもって考查に代える。
		2			
		3			
【課題・提出物等】最終essayである卒業論文を提出する。					
【第3学期の評価方法】第1学期・第2学期の評価と、卒業論文を併せて評価し、学年全体の評価とする。					

【年間の学習状況の評価方法】各授業ごとにおける意見発表等参加の度合いを意欲・関心を中心に個別に評価する。各自の取り上げた題材をessayにまとめさせ、提出されるたびごとに内容を中心に理解度を評価する。お互いが更に優れたessayを書くことができるよう、peer feedback等の活動を通じて、協力しようとする意欲を評価し、また同時にコミュニケーションを図ろうとする意欲も評価する。1年間の取り組みの集大成である卒業essayを主たる評価対象とする。

確かな学力をつけるアドバイス	essay提出の期限を遵守させ、お互いにお互いのessayや意見を批判しながらも尊重する姿勢を持つことの重要性を確認する。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	自らの意見を忌憚なく出し合う。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心を持ち、間違うことを恐れず、積極的に言語活動を行おうとする。	essayの提出・peer feedback等の期限を遵守し、また、授業中に自ら自発的に発言する様子を記録する。
表現	自らの意向や意見をできるだけ分かりやすく、適切に表現する	essayを相互に点検したり、AETやJTEによる推敲を通して、よりすぐれたessayにしようとする姿勢を評価する。
理解	様々な情報の中から必要と思われるものを選別し、それを正しく読み取ることができる。	お互いのessayやrecitationや発表を理解し、自らの考えと関連させて質問する。
知識・理解	言語や文化についての基礎的な理解を基盤に、様々な情報や相手の意向などを理解できる。	言語や文化についての基礎的な理解を基盤に、様々な情報や相手の意向などを理解し、コメントを加える。

3 担当者からのメッセージ

自分自身を表現しよう。

教科名	科目名	単位数	履修学年	区分・型(文型・理型)	全員/選択
英語	時事英語	2単位	第3学年	普通科・国際コミュニケーションコース	選択

1 学習の到達目標

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞・雑誌・情報通信ネットワークなどに使われる英語の基礎的な知識と技能を習得する ・国際状況に関心を持ち、さまざまなメディアを通して国際社会に対する理解を深め、それについて自分の意見を述べる
使用教科書・副教材等	自主教材(英字新聞、TVニュース、インターネット上の時事記事等)

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第1学期	インターネットの使い方 時事英語について 英字新聞 レポート課題(1)	4	<ul style="list-style-type: none"> ・時事英語の基礎的な知識を習得する ・世界の出来事に興味関心を持ち、さまざまな記事を読むことにより、その内容を理解する 	インターネットを使用する際の注意事項を知らせる。インターネット、英字新聞等を通して、世界情勢を知る。	期末考查
	インターネット上の時事記事 英字新聞 レポート課題(1)	5 6	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の出来事に興味関心を持ち、さまざまな記事を読むことにより、その内容を理解する ・自分が設定した課題について、資料等を収集し、さらに理解を深める 	インターネット、英字新聞等を通して、世界情勢を知る。音読活動を毎時間行う。	
	プレゼンテーション ディスカッション	7	<ul style="list-style-type: none"> ・各自が選んだトピックについて、調べたものを発表し、内容についてお互い討論する 	プレゼンやディスカッションの仕方を身につけ、積極的に自己表現する。	
	【課題・提出物等】 レポート(プレゼンテーションに使ったもの)				
【第1学期の評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・定期考查(期末)、小テスト、提出物を総合的に評価する ・「書く力」は即時性において1分間に25語を評価規準とする ・音読活動は1分間に140語の速さを評価規準とする 					

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲	
第2学期	インターネット上の時事記事 英字新聞 レポート課題(2)	9 10 11	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の出来事に興味関心を持ち、さまざまな記事を読むことにより、その内容を理解する ・自分が設定した課題について、資料等を収集し、さらに理解を深める 	インターネット、英字新聞等を通して、世界情勢を知る。音読活動を毎時間行う。	期末考查	
	プレゼンテーション ディスカッション	12	<ul style="list-style-type: none"> ・各自が選んだトピックについて、調べたものを発表し、内容についてお互い討論する 	プレゼンやディスカッションの仕方を身につけ、積極的に自己表現する。		
	【課題・提出物等】 レポート(プレゼンテーションに使ったもの)					
	【第2学期の評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・定期考查(期末)、小テスト、提出物を総合的に評価する ・「書く力」は即時性において1分間に30語を評価規準とする ・音読活動は1分間に150語の速さを評価規準とする 					

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考査範囲
第 3 学 期	インターネット上の時事 記事 英字新聞	1 } 3	世界の出来事に興味関心を持ち、さまざまな記事を読むことにより、その内容を理解する	インターネット、英字新聞等を通して、世界情勢を知る。音読活動を毎時間行う。	学年末考査
	【課題・提出物等】 特になし				
	【第1学期の評価方法】 ・「書く力」は即時性において1分間に30語を評価規準とする ・音読活動は1分間に160語の速さを評価規準とする				

【年間の学習状況の評価法】 各学期での評価を総合的に判断して年間の評価とする。

確かな学力をつけるアドバイス	普段から、日本のみならず、世界の出来事に興味関心を持ち英字新聞や、インターネットを通してその内容を英語で理解するようにする。
授業を受けるに 当って守ってほしい事項	・予習がある場合には必ずする ・間違いを恐れず、積極的に自己表現する

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	積極的に英語を聞いたり、読んだりしコミュニケーションを図る態度が見られるか。	学習活動への参加の仕方や態度
表現の能力	情報や知識をまとめて口頭で発表したり、文章で表現しているか。	小テスト、定期考査、レポート、プレゼンテーション、毎時間の音読活動
理解の能力	情報や話し手の内容を理解しているか。	小テスト、定期考査
知識・理解	基本的な文章から、比較的高度な内容のものまで理解できる技能が身についたか。	小テスト、定期考査

3 担当者からのメッセージ

年間2回のレポート提出については、テーマを早めに決めて事前に各自で資料を集めて下さい。

教科名	科目名	単位数	履修学年	区分・型(文型・理型)	全員/選択
英語	通訳演習	2単位	3学年	普通科国際コミュニケーションコース	選択

1 学習の到達目標

学習の到達目標	(1)通訳者養成トレーニングを通じて、英語の4技能をさらに伸ばさせる。 (2)口答英文解釈および口答和文英訳訓練を通じて、場面に応じた即興表現力を伸ばさせる。 (3)ボランティア通訳検定A級の資格が取得できるだけの基礎的通訳能力を習得させる。
使用教科書・副教材等	・柴田バネッサ、『はじめてのウispリング同時通訳』南雲堂 ・自作プリント

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第1学期	<ul style="list-style-type: none"> リスニング・パワーアップ リピーティング 単語クイック・レスポンス セグメント判断 数字クイック・レスポンス シャドーイング 頭ごなし訳のテクニック 頭ごなし訳のテクニック サイトトランスレーション リテンション練習 	4	・速読訓練の一環として音読速度を高める。	<ul style="list-style-type: none"> 音読速度の測定にはCALL設置の「Speed Reader」を用いる。 単語および数字の即応練習にはCALL設置の「Quick Response」を用いる。 	期末考查
		5	<ul style="list-style-type: none"> くり返して聞き、くり返して音声化することによって瞬時に訳出できるまで語句や表現を定着させる。 即時反応訓練により正確で自然な訳出の基礎となる語彙増強を図る。 		
		6	・英語の語順でセンテンスを理解する練習により、英語による発想法を習熟させる。		
		7	・長い文章を訳出する際必要となる短期記憶能力を高める。		
【課題・提出物等】 ・各課の日英通訳練習課題文の暗唱。 ・音読課題文を録音したメディアの提出。					
【第1学期の評価方法】 授業への積極的参加度、提出課題やパフォーマンスの評価点、および確認テストと定期考查の結果で評価を行う。					

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第2学期	<ul style="list-style-type: none"> 内容先取りの戦略 予測の戦略 リピーティング 同時サイトトランスレーション 文脈からの推測 通訳メモ練習 要約通訳 ウispリング同時通訳 リライト センテンス逐次通訳 	9	・副詞や関連語句を利用した予測ルールの再確認を行なうことによって、文章の流れを自然に予測する能力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> サイトラにより即時的理解力を養成する。 メモはあくまでも短気記憶の補助であり、メモ取り作業に固執しないよう注意。 	期末考查
		10	<ul style="list-style-type: none"> 通訳用スラッシュリーディングの練習は同時通訳の基礎となる。 メモ取り練習によって、まとまった情報の主旨を、時間を掛けないで把握することが可能になる。 		
		11	・一つの文章を意識してニュアンスの違いを表現する技法を学習する。		
		12	・短文通訳の練習は逐次通訳の基本となる。		
【課題・提出物等】 ・各課の日英通訳練習課題文の暗唱。 ・音読課題文を録音したメディアの提出。					
【第2学期の評価方法】 授業への積極的参加度、提出課題やパフォーマンスの評価点、および確認テストと定期考查の結果で評価を行う。					

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第3学期	・リプロダクション ・短いパラグラフ逐次通訳	1	・リスニング、リテンション、構文組立、表現力、デリパリーの総合練習を通じて、自分の言葉で表現する技能を高める。	・100 - 200語の パッセージを70%以上 訳出できることを目標とする。	期末考查
	・ワンセンテンス遅れの 通訳練習 ・簡単な同時通訳	2	・記憶を整理しながら情報を保持する練習を行なう。 ・直聴直解したものを口訳訳出することによって即時的表現力を総合的に高める。	・100%出来なくても、出来るところから上手くつないでスピーチを完成させる。	
		3			
【課題・提出物等】 ・各課の日英通訳練習課題文の暗唱。 ・音読課題文を録音したメディアの提出。					
【第3学期の評価方法】 第3学期だけの評価は行わず、年間を通じた評価を行う。					

【年間の学習状況の評価法】
各学期での評価を総合的に判断して年間の評価とする。

確かな学力をつけるアドバイス	「自分の音読スピードと同じスピードで読まれた、または発表されたスピーチ内容は理解できる。」ことを基本コンセプトとして、日本語、英語を問わず文章をひたすら音読（音速読）することを奨励する。また日常生活における事象を英語で描写しようとするなど、間違えを恐れず絶えず英語表現力の活性化に努めてもらいたい。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	家庭学習においても付属の音声教材を活用して通訳トレーニングを実践するなど、復習や反復訓練を重視すること。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	間違ふことを恐れず自分の考えなどを表現している。 自分の知っている語句や表現で言い換えるなど工夫をしながら自分の考えを相手に伝えようと努力している。	・授業中に実施する確認テストの得点。 ・定期考查(筆答試験および口答試験)の得点。 ・各種パフォーマンスでの評価点。 ・授業中の様々な表現活動において、積極的であったか、発言が論理的で説得力のあるものであったかなどを評価の対象とする。
表現の能力	意図や気持ちを的確に伝えるために場面や状況に応じて適切な抑揚、リズム、声の大きさ、スピードで伝えることができる。 場面や目的に応じて、情報や概要を整理して正確に伝えることができる。	・授業中に実施する確認テストの得点。 ・定期考查(筆答試験および口答試験)の得点。 ・各種パフォーマンスでの評価点。 ・WSAテスト(Speakingセクション)の評価点。
理解の能力	長い日常会話と英文250語程度(語彙1300語レベル)を150w/mで聞き、70%以上理解できる。 まとまりのある文章を適切なスピードで読み、内容を理解することができる。	・授業中に実施する確認テストの得点。 ・定期考查(筆答試験および口答試験)の得点。 ・各種パフォーマンスでの評価点。
知識・理解	パブリックスピーキングの活動に必要な構成・文法・語彙・効果的な発表の仕方などについてくわしい知識がある。	・授業中に実施する確認テストの得点。 ・定期考查(筆答試験および口答試験)の得点。 ・各種パフォーマンスでの評価点。

3 担当者からのメッセージ

『通訳演習』は、プロの通訳者養成トレーニングメソッドを積極的に導入した科目です。従来の英語学習とは違った視点で、実践的英語表現能力を磨いていきます。例えば「日本語と英語の特異性にも関わらず、なぜ同時通訳が可能なのか？」など皆さんが日頃抱いていた不思議が解明されるばかりでなく、皆さん自身が同時通訳者を体感する授業内容にもなっています。但し、より訓練効果を高めるためには、基礎的文法力の完成が不可欠です。早めに復習しておきましょう。

教科名	科目名	単位数	履修学年	区分・型(文型・理型)	全員/選択
英語	コミュニケーション	1単位	第3学年	普通科・国際コミュニケーションコース	全員

1 学習の到達目標

学習の到達目標	英語によるコミュニケーション能力の伸長を主眼として、現代の社会問題を題材として用いる。とくに議論において、論点を的確に把握し、自らの意見を論理的かつ適切に表現する能力を身につけるとともに、問題解決への方途を探究すべく互いの意志疎通と協議を活発に行おうとする積極的態度を養う。
使用教科書・副教材等	Debating the Issues (Macmillan Languagehouse)

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第1学期	Warm-up	4	授業で用いる基本的な表現の確認と定着。	英語のみ使用可 音読を徹底する	中間考查
	「英語の第二公用語化」	5	資料読み、情報収集、簡易ディベート、ディスカッション、プレゼンテーションを行い、テーマに関する意識を深め、議論するためのコミュニケーション能力を向上する。	・スピーキングの流暢さの向上を図る活動を毎回行う ・テーマごとに300～500語の英文レポートを課す	
	「現代の若者の生活様式」	6			
	「結婚観」	7			ディベートの意義と方法を学ぶとともに、トーキングマッチなどを通して、議論に必要な流暢さと論理性を養う。
	「ディベート」	7			
【課題・提出物等】 (1) 英文レポート (2) ワークシート(授業中に配布して使用) (3) カセットテープ(音読やスピーチを提出)					
【第1学期の評価方法】 (1) 定期考查(50%) (2) コミュニケーション活動への参加度・ワークシート(25%) (3) 英文レポートなどの課題(25%)					

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第2学期	「ディベート」	8	ディベートにおけるジャッジの方法を学ぶとともに、ディベートの試合を実践し、議論での流暢さと論理性を向上する。	・スピーキングの流暢さの向上を図る活動を毎回行う	中間考查
		9			
	「ディスカッション」	10	・グループごとに研究テーマを設定し、調査・資料作りをとおして情報収集・論理的な表現方法を学ぶ ・研究内容のプレゼンテーションとディスカッションを行い、議論での流暢さと論理性を向上する	・スピーキングの流暢さの向上を図る活動を毎回行う ・議論したテーマごとに100～200語の英文レポートを課す	期末考查
		11			
		12			
【課題・提出物等】 (1) 英文レポート (2) ワークシート(授業中に配布して使用) (3) カセットテープ(音読やスピーチを提出)					
【第2学期の評価方法】 (1) 定期考查(50%) (2) コミュニケーション活動への参加度・ワークシート(25%) (3) 英文レポートなどの課題(25%)					

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第3学期	「効果的なコミュニケーションとは」	1	・ディベートやディスカッションなどで効果的な議論をするために必要なことは何かを学ぶ ・コミュニケーション学の視点から、効果的なコミュニケーションの技法は何かを学ぶ	・スピーキングの流暢さの向上を図る活動を毎回行う	学年末考查
		2			
		3			
	【課題・提出物等】 (1) 英文レポート (2) ワークシート(授業中に配布して使用) (3) カセットテープ(音読やスピーチを提出)				
	【第3学期の評価方法】 (1) 定期考查(50%) (2) コミュニケーション活動への参加度・ワークシート(25%) (3) 英文レポートなどの課題(25%)				

【年間の学習状況の評価法】

各学期での評価を総合的に判断して5段階で年間の評価とする。

確かな学力をつけるアドバイス	・自分の考えを英語で声に出すスピーキングの練習を毎日行う ・授業で確認した英文・表現や教科書の英文・語彙などは、音読の練習を毎日行う
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	・授業中のコミュニケーションはすべて英語で行う ・課題の提出期限は厳守する

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	コミュニケーション活動への参加度、ワークシート・英文レポートなどの課題の提出状況
表現の能力	身近な問題について、情報や考えなど伝えたいことを英語で話したり、書いたりして表現する。	・授業中のコミュニケーション活動でのパフォーマンス ・定期考查のライティングとスピーキングの評価点 ・英文レポートなどの提出物 ・WSAテスト(「話す」は1分間に75語、「書く」は15語の流暢さを規準とする)
理解の能力	身近な問題について、英語を聞いたり、読んだりして、情報や考えなど相手が伝えようとするのを英語で理解する。	・授業中のコミュニケーション活動でのパフォーマンス ・定期考查のリーディングとリスニングの評価点
知識・理解	身近な問題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある文化などを理解している。	ワークシート・英文レポートなどの課題の完成度

3 担当者からのメッセージ

2年生から継続して、情報や自分の考えを論理的に表現できることを重視します。さらに、これらを流暢に発信できるよう努力していきます。

授業では、発信能力を養うきっかけとなる活動を行いますが、本当のスピーキング能力をつけるには、ライティングなどと同じく家庭での習慣(いわゆる秘密練習)が欠かせません。当然こういった練習は大学入試にも十分に役立ちます(例、「話せる」=「聞ける」)ので、続けるとなると苦労も多いですが、これに負けず是非ともやり遂げて欲しい。ともに頑張りましょう。